

校長室だより



令和2年9月28日
校長 齋藤 瑞穂

すみ 墨アートに挑戦!

昨年さくねんに続き、5年生は「墨アート」に挑戦つばしました。講師こうしは市島いちじま博司ひろし先生。墨アートの第一人者だいいちじんしやです。

3学年さんげん以上いじょうのみなさんは、毛筆書写もうひつしやう（習学しゅうがく）を学まなんでいますね。筆ふでに墨すみをふくませ、一画一画いつかくいつかくていねいに、とめ・はね・はらいに気きを付けて書かいていると思います。その時とき使う墨すみは、たいてい「墨汁ぼくじゅう（墨液すみえき）」と言って、液体状えきたいじょうになっている墨すみです。

一方いつぽう、墨アートすみアートに使う墨すみは、固形こけいの墨すみ。硯すずりですって使つかいます。水みづを加くわえながらじっくりすると、墨すみの香かほりとともに、墨すみの



色いろはだんだん濃こくなっていきます。「黙想もくそう」で気持ちを整ととのえた5年生は、自分好じぶんこのみの濃こさをめざして墨すみをすり、その香かほりに包つつまれて、いつの間まにか墨アートすみアートの世界せかいへ。市島先生いちじませんせいに様さま々な技わざ法ぽうを教おしえて



いただき、試ためしてみ、自分じぶんの作品さくひんのアイデアをふくらませていきました。

出来上できあがった作品さくひんからは、墨一色すみいっしよくのはすなのに、濃淡のうたんやにじませ方かた、使つかった技わざ法ぽうや道具どうぐによって、不思議ふしぎと「色いろ」や「温度おんど」、「リズム」などが感かじられます。もしかしたら、墨一色すみいっしよくの世界せかいだから、かえって作者さくしやの個性こんせいがはっきり出でてくるのかもしれないね。



5年生が書かいた、市島先生いちじませんせいへの感謝かんしやうの手紙てがみの一部いちぶを紹介しょうかいします。

〇僕ぼくが墨アートすみアートを習ならって一番心いちばんこころに残のこっていることは、後あとから描かいた線せんが先せんに書かいた線せんの下したに入はいっていくことです。後あとから描かいた線せんが下したに入るななんて予想よそうもつきませんでした。

(1組 西森 匠馬 さん)

〇「墨アート」は黒くろを薄うすくしたり濃こくしたりして、一つの色ひとつのいろで表現ひょうげんするのでおどろきました。「墨アート」は一色いっしよくしか使つかわないけれど、グラデーションや様々さまざまな技わざ法ぽうを使つかい、まるで絵えの具ぐを使つかったような完成度かんせいどになりました。

(2組 柴田 海都 さん)

蟄虫培戸～むしかくれてとをふさぐ～

1年ねんを24に分わけた二十四節気にじゅうしせつぎ、72に分わけた七十二候しちじゅうにこうによれば、ちょうど今の時期じきは、二十四節気にじゅうしせつぎの「秋分あきぶん」、七十二候しちじゅうにこうでは「蟄虫培戸むしかくれてとをふさぐ」に当たります。

「蟄虫培戸」とは、寒せむさに備そなえ、虫むしたちが木の根ねっこや土つちの下したにもぐるなどして、冬ふゆごもりのしたくを始める時期じきという意味いみです。チョウのように、幼虫ようちゅうがサナギになって寒せむさから身みを守る虫むしもいますね。ようやく暑あつさが和やわらいできた頃ころに、もう冬ふゆのしたくを始めるといいますから、虫むしたちの曆こよみは人間にんげんの曆こよみより進すすみが早はやいのもかもしれません。



保護者の皆様

オリンピック・パラリンピック教育の一環として、杉七小では日本の伝統文化に触れる活動にも力を入れています。「墨アート」もそのひとつ。世界に羽ばたく子どもたちが、訪れた国で、誇りをもって日本の文化を紹介できたらどんなに素敵でしょう。